

宮沢 仁朗

答えは「ノー」です。皆さんは認知症というと、アルツハイマー病を思い浮かべると思います。しかし、実は認知症とは脳の病気ではあるのですが、病名ではありません。

のうち最も頻度が高い疾患がアルツハイマー型認知症で50%以上、2番目が「脳血管性認知症」で約20%、3番目に多いのが「レビー小体型認知症」で約15%と言われています。この上位3位までの認知症疾患を総称して「3大認知症」と呼

# 医療・福祉NOW

認知症は「脳の後天的な病気によって、正常に発達した知的機能が低下し記憶力や判断力が障害され、日常生活に支援、介護を要する状態」と定義されます。そして認知症の代表的な原因疾患として「アルツハイマー型認知症」があります。

日本で認知症の原因疾患

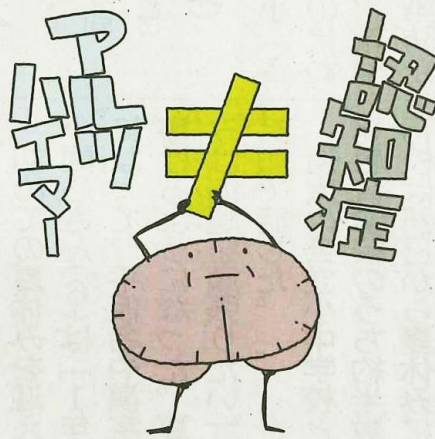
び、さらに「前頭側頭型認知症（主にピック病）」を加え「4大認知症」と呼称することもあります。

「頭部外傷後遺症（慢性硬

膜下血腫）」「甲状腺機能低下症（橋本病）」「脳炎後遺症」「アルコール依存症」「ビタミン欠乏症」「うつ病」などがあります。多くの認知症は脳の働き

例えば血液検査によって甲状腺ホルモンが不足している場合、「甲状腺機能低下症」が疑われ、甲状腺ホルモンを薬で補充することにより認知機能が改善するこ

## ▶認知症とアルツハイマーは同じなの？



が徐々に低下し機能の回復を期待できないのですが、一部の認知症は原因疾患の早期発見・早期治療で改善が期待でき、「治療可能な認知症」と呼ばれています。

とがあります。頭部CTやMRI検査で血腫や腫瘍が見つかった場合、それらを取り除く手術で回復する事例も多くあります。

因疾患の正常圧水頭症は、症状として①認知機能低下②歩行障害（小刻み歩行など）③尿失禁を認め、頭部CTや髄液検査で診断して脳にたまった脳脊髄液を排せつさせるシャント術を受けけることで改善が期待できます。

ですから物忘れ外来ではアルツハイマー病のみならず、さまざまな原因疾患を念頭に置いて鑑別診断することが大切です、診断に即した適切な治療が必要となるのです。早期発見が認知症の治療につながる病気もありますので、最近物忘れが増えたと自覚した場合や、周囲から指摘された際には早期の物忘れ外来への受診をお勧めします。

（亀田北病院院長）